



2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年2月8日

上場会社名 セーレン株式会社

上場取引所 東

コード番号 3569 URL <https://www.seiren.com>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼最高経営責任者 (氏名) 川田 達男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 管理本部長 (氏名) 勝木 知文

TEL 0776-35-2111

四半期報告書提出予定日 2023年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	97,340	21.5	10,025	23.2	12,665	44.2	9,359	42.6
2022年3月期第3四半期	80,103	13.0	8,137	38.8	8,785	45.1	6,562	86.1

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 18,587百万円 (105.4%) 2022年3月期第3四半期 9,047百万円 (368.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	174.32	149.76
2022年3月期第3四半期	122.33	104.68

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第3四半期	171,241	107,479	62.0	1,982.80
2022年3月期	155,493	91,845	58.2	1,685.37

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 106,204百万円 2022年3月期 90,446百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		18.00		20.00	38.00
2023年3月期		23.00			
2023年3月期(予想)				23.00	46.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	127,000	15.7	12,300	12.8	14,900	24.9	10,500	22.8	195.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年3月期3Q	64,633,646 株	2022年3月期	64,633,646 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2023年3月期3Q	11,070,927 株	2022年3月期	10,967,984 株
------------	--------------	----------	--------------

期中平均株式数(四半期累計)

2023年3月期3Q	53,694,224 株	2022年3月期3Q	53,649,576 株
------------	--------------	------------	--------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

【添付資料】

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報.....	2
(1) 経営成績に関する説明.....	2
(2) 財政状態に関する説明.....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明.....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記.....	4
(1) 四半期連結貸借対照表.....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書.....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間.....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間.....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書.....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項.....	9
(継続企業の前提に関する注記).....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記).....	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用).....	9
(セグメント情報等).....	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における経済環境は、新型コロナウイルス感染症のまん延防止等重点措置が終了し、一部持ち直しの動きが見られたものの、新型コロナウイルス感染者数の再拡大、エネルギー及び原材料価格の高騰や急激な為替の変動等により、依然として先行き不透明な状況となりました。

このような厳しい経営環境においても、当社グループは、中期方針「未知の可能性への挑戦！」に基づき、変化し続けるお客様ニーズに応え、安定した収益確保と継続的な成長を果たすため、“イノベーションと顧客開発”及び“企業体質の再建”を柱とした事業戦略を推進しております。併せて、企業の潜在力である人材力、開発力及び環境対応力を高める経営を継続し、企業体質の強化に取り組んでおります。

当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高 973 億 40 百万円（前年同期比 21.5%増）、営業利益 100 億 25 百万円（同 23.2%増）、経常利益 126 億 65 百万円（同 44.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益 93 億 59 百万円（同 42.6%増）となり、売上高・営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益は過去最高となりました。

[セグメント別の業績概況]

(車輛資材事業)

国内事業では、世界的な半導体不足による自動車減産の影響を受けましたが、新規商権の立ち上げがあったことや、前年同期に比べ受注が回復したことにより、増収となりました。利益面では、エネルギー及び原材料価格の高騰が影響したものの、業務の効率化をはじめとする経費削減により増益となりました。

海外事業（2022年1～9月）では、売上面で上海ロックダウンによる自動車減産の影響を受けた一方で、アジアにおいて合成皮革「クオーレ®」の販売が堅調に推移し、増収となりました。利益面では、原材料価格の高騰、更には海上輸送費高騰の影響を大きく受けたものの、国内同様、業務の効率化をはじめとする経費削減により増益となりました。

当事業の売上高は596億19百万円（前年同期比27.7%増）、営業利益68億35百万円（同24.8%増）となりました。

(ハイファッション事業)

アウトドア人口増加の影響により、スポーツアパレルは順調に推移し、ファッションアパレルにおいても、一部百貨店ブランドにおいてコロナ禍からの回復が見られ、特に環境に配慮した商品への関心の高まりにより、再生PETや生分解性商品の売上が拡大しました。また、KBセーレン(株)における裏地事業が市場在庫の調整が進み底堅く推移したとともに、制電衣料用「ベルトロン」の売上が増加しました。

当事業の売上高は162億28百万円（前年同期比17.8%増）、営業利益 6 億64百万円（同133.2%増）となりました。

(エレクトロニクス事業)

上海ロックダウンや中国市場の景況感悪化の影響を受け、スマートフォンやゲーム機関連商材の売上が減少した一方で、タブレット、ヘッドフォン等向け素材の販売が順調に推移しました。KBセーレン(株)においては、HDD用ワイピングテープや光ファイバー向け「ザヴィーナ」及びエンブラ繊維の売上が増加しました。また、セーレンKST(株)においては、各種センサー用SOIウェーハ、並びに電子機器の開発や製品テスト向け酸化膜加工が好調となりました。

当事業の売上高は82億24百万円（前年同期比4.1%増）、営業利益は15億64百万円（同23.4%増）となりました。

(環境・生活資材事業)

ハウジング資材関連は戸建て住宅着工戸数減少の影響を受けたものの、新規商権の獲得や環境対応商材が好調に推移したことにより、売上が増加しました。また、住生活資材関連は病院・介護向けに機能性を高めた製品の受注増加等が売上に貢献したほか、オフィスパーテーション等、感染症対策やテレワーク関連商材が好調となりました。

当事業の売上高は72億53百万円（前年同期比17.8%増）、営業利益は8億11百万円（同15.9%増）となりました。

(メディカル事業)

化粧品事業は上海ロックダウンの影響を受け、海外向けの売上が大幅に減少しましたが、医療向け消臭関連商材が順調に推移したことや、KBセーレン(株)の貼付材と「エспанシオーネ」の絆創膏用途が拡大したことにより、売上が増加しました。しかしながら、利益面ではエネルギー及び原材料価格高騰の影響を受け、減益となりました。

当事業の売上高は53億52百万円（前年同期比8.7%増）、営業利益は9億16百万円（同14.3%減）となりました。

(その他の事業)

株ナゴヤセーレンの不動産賃貸管理事業等が堅調に推移しました。

当事業の売上高は6億60百万円（前年同期比1.7%減）、営業利益は3億95百万円（同1.4%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して157億48百万円増加の1,712億41百万円となりました。流動資産は、受取手形、売掛金及び契約資産や棚卸資産の増加等により、前連結会計年度末と比較して106億32百万円の増加となりました。固定資産は、設備投資に加え、海外子会社の財務諸表の換算レートが円安になったことにより、有形固定資産が増加し、前連結会計年度末と比較して51億16百万円増加しました。負債の部は、借入金が増加した一方で支払手形及び買掛金が増加したことにより、1億14百万円増加し、637億62百万円となりました。純資産は、為替換算調整勘定の変動や、利益剰余金の増加などにより、全体で156億34百万円増加し、1,074億79百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況につきましては、当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の残高は341億34百万円となり、前連結会計年度末より13億16百万円減少しました。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、71億83百万円の収入（前年同期は68億92百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益126億53百万円などによるものです。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、54億2百万円の支出（前年同期は46億25百万円の支出）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出62億4百万円があったことによるものです。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、65億94百万円の支出（前年同期は30億32百万円の支出）となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出33億93百万円、配当金の支払による支出23億6百万円などによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、エネルギー及び原材料価格の高騰、世界的なインフレの進行、欧米の金融引き締めによる景気減速等により、依然として先行きが不透明な状況となっております。このような厳しい局面を乗り越えるべく、引き続き未知の可能性に挑戦し、“イノベーションと顧客開発”により、差別化商品の拡販、生産の効率化等を行うことで体質を強化し、高収益企業を目指します。

通期の連結業績予想につきましては、エネルギー、原材料価格及び物流費の高騰や為替変動の影響を受けると想定されるものの、当第3四半期連結累計期間における業績が想定を上回る進捗となったことから、2022年11月10日に公表しました通期の業績予想を上方修正いたします。なお、売上・利益は、前回開示のとおり、いずれも過去最高となる見通しです。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	38,808	35,961
受取手形、売掛金及び契約資産	28,921	37,347
有価証券	785	1,151
商品及び製品	12,963	13,685
仕掛品	3,594	4,823
原材料及び貯蔵品	5,963	7,955
その他	2,483	3,342
貸倒引当金	△8	△120
流動資産合計	93,513	104,145
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	21,277	22,836
機械装置及び運搬具（純額）	11,038	12,012
工具、器具及び備品（純額）	435	536
土地	12,544	12,822
リース資産	103	47
建設仮勘定	4,155	6,040
有形固定資産合計	49,553	54,296
無形固定資産		
のれん	801	679
その他	3,140	3,244
無形固定資産合計	3,941	3,923
投資その他の資産		
その他	8,594	8,984
貸倒引当金	△109	△108
投資その他の資産合計	8,485	8,876
固定資産合計	61,980	67,096
資産合計	155,493	171,241
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,648	19,760
短期借入金	3,813	1,709
未払法人税等	1,478	1,385
賞与引当金	1,233	569
その他	7,433	7,716
流動負債合計	29,607	31,140
固定負債		
新株予約権付社債	15,330	15,262
長期借入金	10,609	9,319
役員退職慰労引当金	131	119
退職給付に係る負債	6,485	6,639
その他	1,485	1,281
固定負債合計	34,041	32,622
負債合計	63,648	63,762

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,520	17,520
資本剰余金	16,786	16,807
利益剰余金	66,952	74,005
自己株式	△14,385	△14,830
株主資本合計	86,873	93,503
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,005	2,308
為替換算調整勘定	1,487	10,325
退職給付に係る調整累計額	79	66
その他の包括利益累計額合計	3,572	12,700
新株予約権	787	567
非支配株主持分	610	707
純資産合計	91,845	107,479
負債純資産合計	155,493	171,241

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	80,103	97,340
売上原価	56,340	69,953
売上総利益	23,762	27,387
販売費及び一般管理費	15,625	17,361
営業利益	8,137	10,025
営業外収益		
受取利息	196	231
受取配当金	135	142
雇用調整助成金	90	17
為替差益	45	2,050
補助金収入	108	148
その他	121	168
営業外収益合計	697	2,759
営業外費用		
支払利息	25	24
その他	23	94
営業外費用合計	49	119
経常利益	8,785	12,665
特別利益		
固定資産売却益	35	4
特別利益合計	35	4
特別損失		
固定資産処分損	21	16
その他	0	—
特別損失合計	21	16
税金等調整前四半期純利益	8,799	12,653
法人税等	2,209	3,240
四半期純利益	6,589	9,413
非支配株主に帰属する四半期純利益	26	53
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,562	9,359

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	6,589	9,413
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△375	302
為替換算調整勘定	2,842	8,884
退職給付に係る調整額	△9	△13
その他の包括利益合計	2,457	9,174
四半期包括利益	9,047	18,587
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	9,031	18,488
非支配株主に係る四半期包括利益	15	99

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	8,799	12,653
減価償却費	3,526	3,884
固定資産処分損益 (△は益)	△14	12
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	0	96
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△782	△664
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	54	123
受取利息及び受取配当金	△332	△374
支払利息	25	24
為替差損益 (△は益)	△63	△1,738
売上債権の増減額 (△は増加)	1,154	△5,560
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△3,120	△1,718
仕入債務の増減額 (△は減少)	△482	2,401
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△19	158
その他	49	894
小計	8,795	10,193
利息及び配当金の受取額	263	293
利息の支払額	△25	△26
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△2,141	△3,277
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,892	7,183
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△4,943	△6,204
有形固定資産の売却による収入	42	13
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	△336	△859
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	518	150
定期預金の純増減額 (△は増加)	564	1,531
その他	△470	△32
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,625	△5,402
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	6	—
長期借入金の返済による支出	△1,022	△3,393
自己株式の取得による支出	—	△832
配当金の支払額	△1,931	△2,306
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△2	—
その他	△82	△61
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,032	△6,594
現金及び現金同等物に係る換算差額	944	3,496
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	178	△1,316
現金及び現金同等物の期首残高	39,498	35,451
現金及び現金同等物の四半期末残高	39,676	34,134

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント(注)1						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	車両資材	ハイファ ッション	エレクト ロニクス	環境・ 生活資材	メディカル	計				
売上高										
顧客との契約から生じ る収益	46,678	13,772	7,899	6,156	4,923	79,431	258	79,689	—	79,689
その他の収益	—	—	—	—	—	—	413	413	—	413
外部顧客への 売上高	46,678	13,772	7,899	6,156	4,923	79,431	672	80,103	—	80,103
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	0	26	175	58	3	264	400	664	△664	—
計	46,679	13,798	8,074	6,215	4,926	79,695	1,072	80,767	△664	80,103
セグメント利益	5,478	284	1,267	700	1,068	8,799	390	9,189	△1,052	8,137

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント(注)1						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	車両資材	ハイファ ッション	エレクト ロニクス	環境・ 生活資材	メディカル	計				
売上高										
顧客との契約から生じ る収益	59,619	16,228	8,224	7,253	5,352	96,679	146	96,826	—	96,826
その他の収益	—	—	—	—	—	—	514	514	—	514
外部顧客への 売上高	59,619	16,228	8,224	7,253	5,352	96,679	660	97,340	—	97,340
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	0	23	336	39	4	403	409	813	△813	—
計	59,619	16,251	8,560	7,293	5,357	97,083	1,070	98,154	△813	97,340
セグメント利益	6,835	664	1,564	811	916	10,792	395	11,188	△1,162	10,025

(注) 1. 各報告セグメント区分の主な製品等は下記のとおりであります。

- (1) 車両資材……………自動車・鉄道車両等内装材(シート材、エアバッグ、加飾部品)
- (2) ハイファッション……………各種衣料製品、衣料用繊維加工
- (3) エレクトロニクス……………導電性素材、工業用ワイピングクロス、ビスコテックス・システムおよびサブライ、電子機器、シリコンウエーハの成膜加工等、人工衛星
- (4) 環境・生活資材……………建築用資材、インテリア用資材、健康・介護商品、環境・土木資材
- (5) メディカル……………医療用資材、化粧品、水処理用資材

なお、「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソフトウェアの開発及び販売、保険代理業、人材派遣事業、不動産賃貸管理事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用(前第3四半期連結累計期間1,095百万円、当第3四半期連結累計期間1,198百万円)が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務部門などの管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。